

「日本刀剣を学ぼう」

～鑑賞のツボと技術研修＜研磨＞＜外装制作＞見学～

2017年7月25日（火）・28日（金）実施 JGA 第一支部研修 終了報告

今年も公益財団法人日本美術刀剣保存協会（日刀保）様のご厚意により、7月25日、28日の二日間にわたり、同協会主催の技術研修を見学する機会を得た。技術研修は25日が研磨で参加者は15名（会員13名、非会員1名、運営委員1名）、28日が外装制作で参加者は14名（会員13名、運営委員1名）であった。

日本刀剣といえば昨今の刀剣乱舞の人氣で「刀剣女子」現象が起きているが、元々海外にも熱心なファンやコレクターが居り、通訳案内士としては知っておきたい分野である。

日本刀剣博物館が移転準備で閉館のため、今回はJGA賛助会員の株式会社日本刀剣様にご協力いただき、虎ノ門の店舗にて実物を拝見しながら、伊波社長や店員の方から刀剣の基礎知識、鑑賞のポイント、また購入に際しての注意点などを伺った。店内の刀剣や刀装具は優れた作品が多く、参加者の一人は鍔を購入。また、参考図書も教えてくださり、購入した参加者が多数いた。



一行はその後地下鉄と電車を乗り継ぎ小田急参宮橋へ移動、昼食を兼ねた休憩を取った後、（公財）日刀保へ向かった。刀剣博物館は2018年1月の墨田区への移転・開館に備えて閉館中。館外に展示されていた、たたら製鉄で作られる鋼の塊「鋸」も残念ながら運び出された後であった。

第二部のプログラムは技術研修（25日は研磨、28日は外装制作）の見学と（公財）日刀保学芸部 たたら・伝統文化推進課の黒滝哲哉課長によるレクチャーである。徒弟制度が崩壊しつつある今日、師匠から弟子へと受け継がれてきた伝統技術をいかに絶やすことなく維持していくかが各方面での課題であるが、（公財）日刀保は、その道のトップクラスの方を講師に迎え、希望者が技術を学ぶ機会を提供している。今回見学する研磨（刀鍛冶と研ぎ師に必要な刀剣の研ぎと磨きの技術）、外装制作（白鞘・休め鞘の制作、鍔の制作、柄巻の技術）の技術研修もその一環である。

研磨では約40人、外装制作では約30人の研修生が、年にたった3日間の研修とあって、熱心に技術の習得に励んでいた。海外からの参加者もある。JGAでは感謝を込めて、研修生に冷たいお茶を差し入れている。参加者は熱心に講師や研修生に質問していた。普段触ることも叶わない真剣



を持たせてもらう参加者もいた。

黒滝課長のレクチャーは、たたら製鉄の仕組みと歴史、刀剣の製造方法や扱いについてなど多岐にわたった。たたら製鉄が日本の自然環境とそれを維持する知恵によって、今日まで自然を破壊することなく継続してきたこと。多くの優れた職人が携わって、初めて一振りの名刀と拵えが完成すること。優れた刀剣は心打たれるほど美しく、もはや人を殺すための武器とは思えず、やはり神に捧げるのが相応しいと思えること。

日本刀剣は単なる武器にあらず、美術である。その言葉が実感された研修であった。

